



イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：550千円

特別展示「山里の祝祭—神々と鬼たちの宴舞—」

目的・趣旨 天竜区佐久間町の旧山室神社に伝来した神事芸能「花の舞」の面を紹介・展示する。三遠南信地域に伝わった民俗芸能の魅力を本学の学生たちや市民にも見知っていただく機会とする。

日時・場所 令和4年7月14日～令和4年7月20日
静岡文化芸術大学 ギャラリー

体制 (実施代表者) 文化政策学部 国際文化学科 教授 二本松 康宏
文化政策学部 国際文化学科 教授 西田 かほる
文化政策学部 芸術文化学科 教授 奥中 康人
文化政策学部 芸術文化学科 准教授 田中 裕二

共催・後援等 (共催) 浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会
(後援) 浜松市
(協力) 佐久間神社、NPO法人みらいネット浜松

内容

1956年（昭和31）、天竜川の畔にあった山室集落は佐久間ダムの完成と引き換えに湖底へと沈んだ。その山室にもかつては「花の舞」と呼ばれる神事が伝えられていた。山室集落の解散後、「花の舞」に用いられた神々と鬼たちの面は佐久間町内の別の神社に移管され、長いあいだ収蔵庫のなかで眠ってきた。本事業では、浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会と浜松市文化財課と連携し、山室集落の「花の舞」に用いられた神々と鬼たちの面を初めて展示公開した。また、公開講演会、ギャラリートーク、神楽の実演などもあわせて開催した。なお、本事業は「地域連携演習」のプログラムも兼ねており、10名の学生が事業の企画・運営に参画した。



結果・成果

7月15日（金）からあいだに3連休をはさんで7月20日（水）までの6日間の開催となった。
7月14日（木）の内覧会では浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会と浜松市文化財課の関係者、学内関係者、報道各社も含めて約30名が参加。静岡新聞と中日新聞が取材に訪れ、翌日の両紙の朝刊に開催の記事が掲載された。
また、15日（金）にはNHKが取材に訪れ、当日の昼のニュースで放送された。同ニュースは翌日には全国でも放送されたため「ニュースを見て知った」という県外からの来場者が多数あった。
とくに、7月17日（日）の午後に催した講演会と神楽舞の実演では、当初の見込みをはるかに上まわる来聴があり、会場の南棟176大講義室が満席に近い状況となった。新型コロナウイルスに見舞われた時期でもあったので、満席に近い状況になったことはかならずしも芳しい成果とは言えず、開催と運営に課題を残した。それでも、内覧会を含む7日間で合計759人の参加があったことは、本事業における大きな成果と言えるだろう。
「地域連携演習」として事業の企画・運営に参画した学生たちにとっても、充実した学習の機会になったようである。

